

日々培われる 「自分で考える野球」

「場面判断などの難しいことを教えても、小学生には理解できない——」

そんな声が上がること多い小学生の少年野球。場面判断が必要になるような難しいプレーは、中学・高校野球で学べば良いという考え方だ。

しかし、桂スポは違った。小学生のうちに、いや、小学生だからこそ、場面に応じて自分の頭で考えてプレーすることの大切さ。彼らはその姿勢を常に意識して、日々の練習に取り組んでいる。

桂スポが目指す 「自分で考える野球」

桂川町野球スポーツ少年団（以下「桂スポ」）の特徴について、田中監督は次のように語る。「現在、うちのチームは6年生が3人しかおらず、他のチームに比べると、パワー不足は否めません。だからこそ、ストライクとボールの見極め、バントや走塁など、細かい部分を正確にこなすことでパワー不足を補う、粘りのチームだと思っています」

さらに田中監督は、「実は、うちのチームにはいわゆるサインプレーがありません」と、驚くべきことを口にする。野球の試合では、監督がベンチからサインを出し、バントや盗塁などの指示を出す「サインプレー」を行うことが普通である。ところが、田中監督はサインを使って指示を出さず、選手たちそれぞれの判断に任せているという。

「場面に応じた判断を、その場で自分で考え、プレーする。それが桂スポが目指す『自分で考える野球』です」

これからに生きる野球を

そんな桂スポのチーム方針は、練習中にも表れている。週1回の基礎練習の他は、ほとんどが実戦形式で練習を行っている。塁上にランナーを置き、バントや盗塁も選手の判断で積極的に行う。田中監督はその理由について、「動きを覚えるためには、体と頭を同時に使いながら、実際の試合のような練習をするのが一番です」と語る。

『自分で考える野球』を意識することで、野球のプレーに対して100通りも200通りものやり方を学ぶことができます。確かに場面ごとの判断は、数も多く、難しいかも知れませんが、しかし、難しいからこそ、頭が柔らかい小学生のうちに、場面を判断して自分の考えでプレーする姿勢を身に付けることが大切なんです。その姿勢が身に付けば、中学校や高校での野球に活きるのももちろん、普段の生活など、これからの子どもたちの人生にも良い影響を与えたいと思います」